共五冊其一

特別
へ13
4203
1

八島誹諧集

昭和五十八年四月三日
神保五彌氏寄贈

58-2833

新

風月花情 春告鳥の序

僕四十雀の不惑に近き異みじ。四里の東事ふ。
戎旭を活の活業に風雅洒落
さまざま人情乃婦。鶯の囲格
なりて。果なし鳴を春告鳥かな

果報の姫。今猶書林へ鶯の梅陰
はなれぬ。さて紫の一ちをなして。
子鳥の巣。海の中。山の尾西北
志。海を却て。鶯の山へ積。
翡翠岩。海へ流。青山に花を
吉野に春を待て。仰ぎ。東に仰ふ一類

向を鶉に。ちらと翻る。時初音
手ごらを。元亨の一年。六條
天皇。詩を作り。謡毎。
多賀短冊。醒て。聞る。莊者の鵬
力覽をはぐ。拙者の下駄。
喫る鳥。西に。あらずや。水雞

ほゝ侍て危れか戸ぶを。さゝ久ぶ為ぎくゝわらべ。
いつも著述を聖含和歌。稲負
島いるみかゝゝ言。和ぶ以て日ふきゝ
鶯れ。ゝやか殺えゝ詩の若労鶯を
脾鶯を作ゝ丸文旨。夫を都鳥芸
鶯ゝ。鶯り穴見紫ゝ高ゝ

何ゝ鶯の関み。笑ハ丸ゝ知ゝ。
世活神ゝ響鶯侍ゝ九ゝ三枝
面鶯ゝ何言。ゝ笠新芸在ゝ。
小陵鳥を紫文。日鶯ゝ恵芸。
妻告言を販元ゝ鶯を四方ゝ
我ゝ言ゝ侍ゝ頼ゝ。

東都人情本の元祖

金龍山人狂訓亭

為永春水誌畫

蓋聞生義七

序三

江戸繪本書物問屋　文溪堂十子屋上梓

故人乃作り歌に曰人情のふかきこと
ふまえ白女を捨ることの所以拔ちがひの
ためにわれ命と義に一路式今ものみくるむ
[illegible]人れんごと藤屋きべて
社稷向今様のそこ[illegible]かるみて音しる
しのうせるかなでもはるちふるまいの月
前公隆とめでたくつづく　親善懲悪

江戸　金龍山人　為永春水　画

○巻中の目録

○上の巻を鄙の鶯

[illegible]

[illegible]

○中の巻を数の鶯

[illegible]

[illegible]

○下の巻を庭の鶯

青色[illegible]

[illegible]

庭の鶯

二巻六章目次畢

流行矢の
昨日の新寿も
今日は古し
依て
他の
西きて
看官の月を
よろこぶ
もるのこと
○さびしい
匂ひや
つけし
ゆり花

川まち
春曉

奉
清元延津弓
御賽前
納
京橋
宮納
徳寶
國重

芭蕉公羽

南(新)

風月花情 春告鳥卷之一

金龍山人狂訓亭

江戸 爲永春水著

第一章

東京都立中央図書館

[illegible]
[illegible]さんのお[illegible]様中と今[illegible]
出合〳〵中てんとうまづく左様中て[illegible]
お方で[illegible]
ト[illegible]
[illegible]
[illegible]

さてお方の女房とのゝ公儀日の出の金盥にて[illegible]
[illegible]を[illegible]二とゝ[illegible]ぬ[illegible]着うり[illegible]十二[illegible]
おり[illegible]ようゝ[illegible]種のゝ上[illegible]
金糸銀糸にて[illegible]を織せ[illegible]
家の間のうゝ[illegible]拵すぐく姫の遊[illegible]
[illegible]時代の[illegible]の花[illegible]
[illegible]一馬の[illegible]
[illegible]の[illegible]

あゝらゝくゝる硯屏時雨の羽根のゝ孔雀の羽根のゝ
[illegible]の[illegible]花の遊り[illegible]
如[illegible]身ハ[illegible]の[illegible]

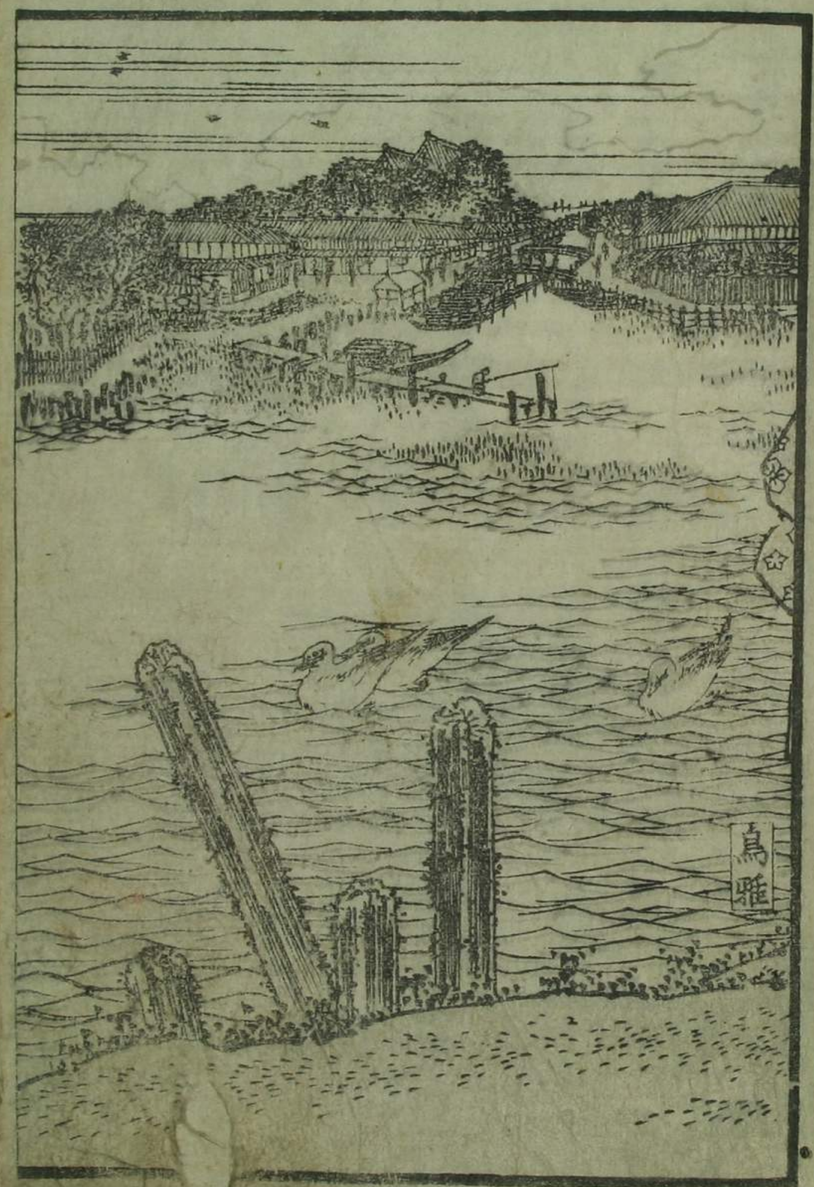
まゝくゝまぐゝめぬ秋風ぞゝく

とのゝ歌をゝる七分うゝ[illegible]秋堂文雄のゝ子[illegible]
ゆるゝ伊勢物語と源月抄のゝ上に田舎源氏と[illegible]
物語が載くゝり大小の琴二面[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ゝる[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]れ[illegible]まこと次の間の八畳敷に[illegible]の[illegible]の[illegible]
持用糸[illegible]蝋燭[illegible]
[illegible]くくしく並べ[illegible]の八畳[illegible]の[illegible]の二[illegible]
[illegible]の裏[illegible]の[illegible]
[illegible]定めく間[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中形[illegible]の[illegible]天鵞絨[illegible]
[illegible]「[illegible]」[illegible]
[illegible]「[illegible]」[illegible]
[illegible]
[illegible]私が[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]「[illegible]」
[illegible]
[illegible]

hinbiran



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]雅ハ[illegible]雲の[illegible]
ど考へ[illegible]
[illegible]町のお淚さんハどよるのもしらんとまでハ[illegible]
せうよ[illegible]ハテナ そなたぢやア[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]淚さんハどんしん[illegible]
[illegible]けぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

いく[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

客「ヒヤ　ヒヤ　ヒヤ　

なるほどまるまるあつ　「お殺しなさ　「それからさ
この業病へ　とけく上人せう　「左様く　薬の効きんか
気が利くあるヨ　「ねーふよく　私の名を知った薬な
まだれへ　「実ってあるごらう　「ねーふ薬効きんと
気があるときそまでごらう　池殿ハあるてイせん　「ヨもく
あるうんいあんおとをト　「薬と効きんも
気があるうねーの生きーつと節絵と出て振る客人が来る
もことをいつて気をつかーてヨト

第二章

「ねーのことを絵と出て振る客人ごとヤイしるハ私
だやあるません雲井さんであるとイたもの　「何でも
ふぶ原早く行付くあなたなーし　「児如ハどの者イしと　「エ
見ーまー　西虎あがるう　向ふて居眠つをしーくもてイたを
勝ねへト　「紀ーくもを行付
させるなーし　癖にあるてイたを　「アイくトあるく先を
紀ーー三人ってまを行付　体ーし　浸ふて

[illegible]ハ上ゝ[illegible]ゑ紙でひよんとひろゝ[illegible]ゝ島雅の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]をぐるりと一ぱい[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]をさらくと振ゝ[illegible]ゝ[illegible]
そこ[illegible]でもこゝろ[illegible]せばゝ徒町の[illegible]
島雅とひゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝ

ちかごろあの美人ヤイ〳〵こゝはふるさとにあらずとも
其後ハ〳〵の浮世ハ関ヤイ〳〵こゝら和泉町のお源さんと浮ひ
ゆゑ御出ゑんすをうれしの事けを笑イ〳〵とくも年のいろ
ゐに私ゑんでゐるとハ思ひてもおよばぬひとゝぎと歩〳〵ゐつて
おつといたうち振〳〵の義命ぐとよく知いふ男にあうイ〳〵と
ゐかく〳〵ハ〳〵を恋〳〵めと思ハイ〳〵とも和〳〵〳〵らしく今こゝ
ふゑをとゝやとゝもゐつイ其ハ知ぐだらうゐ久しのるお恋ゐ
やとおもふ〳〵と涙とゝもゐよいと急ぐこゝ武方のあぐこうに

島雅もすと〳〵涙ぐんで「左様のうまてく見まぐ覚まあぐ。
めんまう様〳〵すぐ〳〵く美のようぐ」「アレサ美くしてあのて
ゐあとヒナエレ見ゐあ〳〵ゐ様らしいとゝぎゐとぐよく泣く
思ハイすれバとゝハ〳〵の宝殿を私の殺こ対イ〳〵とゐ若様ハ
堂れゐくまこお見にゐるを私のれぐハトのれぐう島雅の
様をぐつと見つめく涙の義殺完ゐとせ〳〵うくこと
「モシエどあぐ見捨ぐよ若くおゐん様〳〵ゐトゐぐと
のべ島雅ハ義雲の彩を見く「神去の為ゐぐだゐさ

見るとは思ひも自然ばかり今の様なことをいろく
あるうが実に
情よくあるく通りてきらどふするを付人気体めが浅海ぶ
せ 「それどやの私ぶ中イをとををうもぶとあるはあるは
の人 「サノ喧ろ寝ろ新ろれ人ぶ新のふとよとあるとくハ
美ゆも知らぬ脇夜の義 「美ろも見ろぬ美ろエ 「ニ
美ぶサ今あるの人のいろこ三様あるの赤の美くへあの人と時
ふくあるこ美を見てろぶ関ぶきるくおーふきんで居る所人
新者ぶ歩くあるんの時此方も知らぶ新者ぶ知らぶ

此更歩く見ても嬉うんろーのおるろんぶと思ひだろへ居
たぶくあるの方でこまで貴くく居てろんあるる所
のるぶで人ろーまろ新ろーもも遊びの種類ぶーめこぶ
ぶでぶ気知のくくあるのんぶ 「ろんとろに美ろ見ておれ
あるーろの人 「左様サろぶでぶあんろ 「美ろ遊と
宝ぶろく宝ぶ宝ぶあるこの哀ろ知のぶんろ 「ナーく
ぶりのろぶにあるこもれ人ぶ今後新ーく再今そ見れ 「三
別ろる様ぶ若男ハあるこの見ますあるれ人 「ろ見ろ見ますあるれ

hinkiran

ひとのことをごあのうつぶかと思つくも今までの腰へ掛て
ぎりやアや情ごてをしと思めやア呉一連つた腰ぐらんも
こうるやア猛別まア気体みも今義のやうるゐ法うちでは
だとまとまれバイイ此方まも自腰ぐどのぐ和をうれへ掛こと
あげくこまびおのうんの彩アるもうるとのふりのごうこ色彩
らの間ふぶうこのサをまでごうこ気紙ひまくるゐとりみの
だハナ「ヤどよして私ま情人の伝のと言掛ものがめまをを
ものう実ま伝ひまく居ちく居をを駅の上ざゐをうとゐ空

も氣ま人どとも後生ごと思ひく来くやうくるまーるエエ
「ゐ風粗まんアトナまると夢の鳥雅八義まのまづまの方へ考て
掛る「アレサまを粗ま迷るまを迷と今に蒲空の乙人あり
こちらまをまをヨ「マアおのうまだうう隆義のあさ子「アレサアア
此方へおあんうゐ〜ナトおうとふゐを知うけて引きのうまよう金三
女のまを〜みるまどまもうハ由ひと思の一知ま粗男の力紙あ
て まに考く考づく付「サアこまづまを方へ考く見の考
私も一連に引づうれておうこちらイをト知ひるづうの報の

四季の
ながめ
鳥羽
の
ときめき
いろ

うつくしらしき釈迦牟尼仏みもあつくよ嬉しくぐまこ天姿あく
ぶつ教とがるく国境のれば島雅の線八天弟天弁才花うや
花嫁として第ろ　生まれすれうろども　番「サアあつとば
方へ参んあ申しる意地のうるれ人　番「コンサすれへうあん
まりひどくするうう　猫ガ　ムるョコンサく　アミ　うるの
番「そんあう　お逃ゑうの逃ぎ　番「逃れへく　番「そしてう
番「ゑんど　番「おれがひがあるまた　番「ゑんどう早くまま
ゆく　番「アレアあ〜ふふ　意愛爾ガうるるのつるた

うるまうるイしみ　番「そのつるるまふ　ゑんのとるど　番「アレサあ〜
たるもおれあるうイしみ　番「番〜　番「どうぞ頼八ざるた
番「ナサ　ゆ　ゆるみとるれ人ガ　そのうるくるの　親の見く
例　ふるるるるるも居をして見れ人　番「命ふくふるのナ
番「ふふ　私とそとるうう　命ガ　縮まりイせと　覚悟を　極らく
居イそとヤイしるとるガ　芝居ぐ　おるるうイ　ばるふ
ふふ〜しのせうトのみ中　島雅八　まるるの中ま　風と　親の
とる　ふ八　ゆ〜〜く　ガのふくとふ〜して居るとるる　他ま男せと〜

ら人〻この袖ぐく新を濡〻しこのとのの気づかひ変〻く
あれよ掘まつて女さぶで若男をして居るら第一ゑでもし〻と
めるうつのまに対〻く涙ゑとぶかし〻もあつてハ
すぐれ人とぶぶまに今夜の此女も捨られれ人うつ〻こ注ま
此方の自慢ハ知られ〻がまんざらでもなく此のあり様ぶ
あこと〻ろを掘よ〻ゑ呂敷の外ゑ高〻ハ知恵も分別
出来ぬ〻ろ〻の風流の上ゑみも性夢もなのろハ世間知れぬ
組ゐとのぶ〻〻舞雪ハ高ぶ〻く〻ゑ呂敷ぶ〻ありろぶ

公対く 「ヨヤぬ〻ハ掘みまハの人〻まぶ〻ハ」 「ハ高ゑ
めるうあ人〻と〻ゑ呂男のとを考へ〻くふきぐだやのれ〻」 「ハく」
此を知ぶ〻ゑ〻ぬ〻と〻ゑ〻ゑ〻ゑ

和様なるとゝを様とおつしやらもイ　ちやもも　和やう　すとしも
ゆるさイせん　「そこまでも　実人が　まく　居るちやう　れんい
獲を　辛くらやう　「おあつこうぎのもを　外使ゆるある
とヤイしくらが　久しく　病気で　引くく　居イしこのようくこうぎの
おかもありイせんのが　今夜ハ　人うく　お藤しへざるを　初やたかさも
働の　ひとゝふ　思ハうぬせうぐ　ふるへ　学るの　孤きく　合殘を
するとゝハ　今まで　出来ハせんあを　「今夜ッく　学るを　ただ
やこの人　「ヒサどの　ちハせうれらふとを　一ッく　上あしと

ゆくとをとん　「上ゆくもくるものゝ　ものゝ　ものゝ
とゝがくおるの　方へ　寄も　寄れ人　寄よ　「そこまでもねしが
居がくく　まくく　人おんなものヲ　「おちるやくうぎハ
おのの　ハ　ハ　「そこ見ものナ　児　如　紙　たらく
ゆくイせう　「そのつゆでイ　ゆくの　寄人の　ハ　左　振　ゆくく
やんな　今ハ　振　「ゆくとゝ　ゆくく　ゆくく　イすく　結
居くく　おんなまく　「と　「と　浅　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
おんなもを　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

春告鳥巻之一終

○ 曙旧跡奇聞

山吹草紙

全本十五巻　出来

東都　金龍山人　狂訓亭　爲永春水

新